

「自然」をビジネスに生かす新発想

(ルソンの壺～4月号～) <NHK/18(H30).4.29>

～役立ちポイントメモ～

(1) 冒険の森 in のせ

① (株) 冒険の森 (2011年開設/従業員35人/本社は能勢町にあり/代表取締役は伴戸忠三郎さん<43>) が、能勢町が大阪府よりもらい受けた土地 (大阪府立総合野外活動センターの跡地/約80,000 m²/管理費は年間800万円かかっていた) を借りて、樹上アスレチック事業をおこなう。2016年7月23日にオープン。冒険の森第1号「冒険の森 in やまぞえ」(奈良県)・冒険の森第2号「冒険の森 in いとしろ」(岐阜県)に次いで第3号目。

② ジップライン (樹間距離536m、517m/最高速度は時速60km) の長さは日本1位 (2位は福井県池田町の「ツリーピクニック アドベンチャー いけだ」の510m) ⇒ (感想) 517mを超えるものをつくりたい。

③ 第1号目でジップラインをつくったときは、フランスから技術者を呼んだので初期費用は4300万円だったが、第3号目で、架線集材 (時には1kmものワイヤーを張って山から木材を運び出す技法/クリップを取り付ける位置や数、ワイヤーの角度などワイヤーの固定技術が確立している) という日本の従来からの技法を応用してつくる (林業18年の久住一友さんが尽力) と、初期費用は3割減となった。また、第3号目には、初期費用が回収できる期間が短くなった。こうして今では、全国の自治体などからの引き合いが相次いでいる。

④ 樹上アスレチックは現在全国に50カ所もあって競争が激しい。また、これの所要時間は2時間程度で、これ単独では集客力が衰えるので、他の集客力がある要素 (周辺に行きたくなるような店が多くある等) が必要 ⇒ (感想) 第2工区のそれは、都市のすぐ近くに位置しているという他には真似できない優位性 (売り) がある。また、第2工区では、それ以外のさまざまなサービス・モノを提供する要素をつくることができる。

(2) **会員制度が有効** ① 共感者・支持者の拡大のツールになる ② 事業価値のバロメーターになる

(3) “自然”をビジネスに生かすキーワード

「楽しが、人を呼ぶ」「負の遺産 宝に換える 森の技」 ⇒ (感想) 里山保全活用型ビジネスを楽しく展開することで、第2工区という負の遺産を宝に換えることができます。